

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

事業所名：児童発達支援 つばめ療育館吉田分館

公表日：2025年2月27日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善点、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4			・個室と共有スペースがあり、支援プログラムに支障はない。
	②	職員の配置数は適切であるか		3	1	・職員が欠勤や会議の際は、電話対応や準備、後片付けができなくなってしまうことがある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	4			・玄関にはスロープがあり、室内もバリアフリー化されている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4			・支援後には振り返りを実施し、次回の支援に反映させている。 ・業務を遂行している中で改善点はいくつか見出し職員間で共有しているが、話し合いをする時間が十分とれていない。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4			・保護者からの評価は、真摯に受け止め改善箇所は速やかに対処している。 ・定期的に事業所評価を実施してもらっているため、支援での改善点などが把握できて有難い。 ・保護者からの評価は、職員で共有している。指摘事項は順次改善している。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3	1		・ホームページで公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	2	1	・吉田分館では、まだ行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3	1		・土曜出勤日に研修や講習を受けることがある。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	4			・利用前には、発達支援コンサルタントまたは作業療法士による身体評価を反映させる児童発達支援計画を作成している。 ・保護者のニーズを紙面で提出いただき、児童発達支援計画に反映させている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4			・標準化されたアセスメントツールをベースに、医学的根拠と専門性を重視し発達改善に努めている。

適切な支援の提供	⑪	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4			・児童発達支援ガイドラインのみではなく、医学的根拠と専門性を重視し児童発達支援計画の作成に努めている。
	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4			・児童発達支援計画に従い、日々の振り返りで必要な場合は変更している。 ・目標や支援内容を確認しながら、活動内容を決めている。 ・計画書をもとに活動の予定を立てている。
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	1		・職員が一齐に集まっての計画立案は時間の確保ができず、分担して行っている。 ・難しいケースは、お互いに相談をしあっている。
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4			・支援計画だけでなく、過去の支援記録を確認しながら計画を立てている。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	4			・吉田分館は基本的に個別支援であるが、ご利用児の状況によっては、身体調和支援、運動、課題も部分的に小集団活動を取り入れている。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4			・活動内容や担当をホワイトボードで視覚化し確認している。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4			・振り返りの際にどんな活動を行ったらよいかを適宜相談し、活動計画に取り入れている。 ・毎日午前と午後に振り返りを行い、記録を残し、支援方法の統一を図っている。
	⑱	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			・HUGシステムだけでなく、記録用紙も用いて振り返りを行っている。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4			・6ヶ月ごとにモニタリングを行い、個別支援計画書を見直している。
関係機関や保	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4			・原則として、直接支援を担当している職員が参画している。 ・会議に出席する担当が決まっている。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	3	1		・相談支援専門員や園の先生と適宜連絡を取り合い、情報共有や会議に出席している。 ・園の先生から見学にきていただくこともある。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		3	1	・現在は医療的ケア児や重症心身障害児のご利用者はない。
	㉓	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	1	2	1	・現在、対象となるご利用児がいない。

護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4			・依頼により、入園前に情報提供書を作成している。
	㉑	小学校や特別支援学校（小学部）との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4			・依頼により、就学前に情報提供書の作成を行っている。
	㉒	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3		1	・当該地域には、児童発達支援センターが存在しない。 ・サービス担当者会議で他事業所の工夫している点等を聞き、支援に活かせるものがあれば取り入れている。
	㉓	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		3	・療育の段階では、必要性を感じていない。
	㉔	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	1	1	2	・代表の職員が、療育支援部会に参画している。
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4			・親子療育のため、ご利用時に保護者とコミュニケーションを図っている。
保護者への説明責任等	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	3		1	・保護者から相談を受けた際に、対応方法などの助言を行い、職員間で相談内容を共有している。 ・正式なペアレントトレーニングは実施していない。 ・ご利用児への関わり方や援助法などのアドバイスを行っている。
	㉗	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4			・契約時に丁寧な説明を行っている。
	㉘	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	4			・「発達障害医学」を根拠に、身体改善→運動課題→個別課題のプログラムを提供し、発達の改善事例を積み重ねている。ガイドラインについては、可能な限り整合性を図っている。
	㉙	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4			・保護者からの相談に応じている。 ・必要な場合は、相談支援専門員などに情報提供を行っている。
	㉚	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		2	2	・保護者会等は行っていない。 ・同時間をご利用の保護者同士でやり取りをしていることがある。
	㉛	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4			・契約時に苦情受付、相談窓口の案内をしている。 ・館内に掲示している。
	㉜	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4			・隔月に「おたより」を発行している。 ・HUGシステムを導入し、保護者のマイページに活動状況等を利用の翌日に発信している。

	③⑦	個人情報の取扱いに十分注意しているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に従い、個人情報の取り扱いは十分注意している。 ・ 採用時や職員研修で適宜強調している。
	③⑧	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚支援ボードなどを活用している。 ・ スケジュールや活動内容を伝える際は、視覚支援ボードやタイムタイマーを活用している。
	③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学希望者には、対応している。 ・ 発達支援の場面において、地域開放は逆効果になることが懸念される。
非常時等の対応	④⑩	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種マニュアルを作成し、定期的に訓練を実施している。
	④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回避難訓練を実施している。
	④⑫	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ てんかん発作は確認しているが、予防接種は確認していない。
	④⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在食物アレルギーのあるご利用児はいない。
	④⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループウェア（サイボウズ）に速報として掲載し、職員間の共有により再発防止に努めている。
	④⑮	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルを作成し、年1回職員研修を実施し周知に努めている。
	④⑯	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約書に記載されている。 ・ 親子療育でご利用児の身体拘束は、考えられない。

課題や改善すべき点を踏まえた改善内容や改善目標
・現状を維持する。
・欠勤と会議出席が重ならないように調整する。
・現状を維持する。
・現状を維持する。
・現状を維持する。
・現状を維持する。
・現状を維持する。
・かなりの高評価であったため、今後の必要性は感じていない。
・発達支援コンサルタント主催の専門研修は順次受講し、修了者は再受講を行っている。 ・業務に必要な専門研修の受講は、推奨している。受講料や教材費の負担の他、休日の場合は代休扱いとしている。
・サービスの質は向上し続けるものと捉え、職員の研鑽に努め児童発達支援計画に反映させる。
・現状を維持する。

<p>・サービスの質は向上し続けるものと捉え、職員の研鑽に努め児童発達支援計画に反映させる。</p>
<p>・現状を維持する。</p>
<p>・サービスの質は向上し続けるものと捉え、チームワーク重視でスキルアップに努める。</p>
<p>・ご利用児個々の状態に応じ、固定化しないように工夫を続ける。</p>
<p>・集団になじめないご利用児は、個別指導が可能な環境設定を行う。</p>
<p>・現状を維持する。</p>
<p>・振り返りに参加できない職員に対しては、口頭やグループウェアを活用して共有を徹底する。</p>
<p>・必須の記録すべき内容は統一し、必要な場合には付加的な記録を行う。</p>
<p>・専門的な視点で変更が必要な場合は、適宜行うことを徹底する。</p>
<p>・参画できる職員を増やすため、職員間でスキルアップに努める。</p>
<p>・相談支援専門員との連携を重視し、各機関との連携を強めていく。</p>
<p>・医療的ケア児利用は在籍していないが在籍した場合は、関係機関と連携した支援を行っていく。</p>
<p>・医療的ケア児が在籍した場合は医療機関と連携体制を整えて行く。</p>

<p>・依頼に応えるだけでなく、積極的な姿勢で情報共有に努める。</p>
<p>・支援内容について、更に情報共有できる手段を探る。</p>
<p>・連携を強める必要があると感じるため、こちらから関係機関に出向いて情報共有を行う。</p>
<p>・ご利用児はそれぞれ登園し他児と関わる事ができているので、必要性を感じない。</p>
<p>・行政からの依頼があれば、積極的に参加する。</p>
<p>・HUGマイページのみではなく必要な場合は、紙面、メール、電話連絡、対面で共通理解を持つ。</p>
<p>・親子療育は保護者への支援はやり易い環境であることから、ペアレント・トレーニングの機能を強めていく。</p>
<p>・現状を維持する。</p>
<p>・児童発達支援ガイドラインに加え、医学的な専門性が高い発達支援コンサルタントとの業務契約により得た視点を「児童発達支援計画」に反映させていく。</p>
<p>・保護者からの質問等には、速やかに専門的視点で事業所の回答としてお伝えする。</p>
<p>・就学までの限られた期間であるため、保護者会というより、ピンポイントの会合を企画する。</p>
<p>・保護者からの質問等には、速やかに専門的視点で事業所の回答としてお伝えする。</p>
<p>・現状を維持する。</p>

<ul style="list-style-type: none">・特に職員採用時は、個別で指導する。
<ul style="list-style-type: none">・現状を維持する。
<ul style="list-style-type: none">・地域住民への開放は、慎重に検討していく。
<ul style="list-style-type: none">・現状を維持する。
<ul style="list-style-type: none">・年2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っていく。
<ul style="list-style-type: none">・どの職員でも対応ができるよう定期的に研修し・職員間で再確認する機会を設けていく。
<ul style="list-style-type: none">・日常的な助言のため、事前情報としては有効と捉える。
<ul style="list-style-type: none">・定期的に職員間で発生時に必要な確認事項(時間・場所・誰がどのように発生したか)の再確認、原因・対応についての迅速な報告や共有の必要性を確認する機会を設け、常に全員が当事者意識を持てるようにする。
<ul style="list-style-type: none">・特に職員採用時は、個別で指導する。
<ul style="list-style-type: none">・クールダウンが必要な時は、必ずご利用児を一人にしない体制を取る。